



NPO Honokuni

Forestry Association

Forest

フォレスト NPO (特定非営利活動法人)
Vol. 112 穂の国森づくりの会

〒440-0888

愛知県豊橋市駅前大通三丁目53番地
太陽生命豊橋ビル2F

Tel. 0532-55-5272 Fax. 0532-55-5276

E-mail./ honokuni@honokuni.org

https://www.honokuni.org/

平成12年度から始まった三河生物同好会さんとの自然観察会。気付けば令和3年度の22年間で51回開催していました(うち4回荒天等で中止)。

東三河地域の森林を中心に、愛知県最高峰の豊根村の茶臼山から渥美半島の先端伊良湖岬まで、様々なところを観察しています。初めての場所もあれば、季節を変えて同じ場所を訪ねることもありました。また、愛知県の尾張地域や西三河地域、静岡県遠州地域や岐阜県東濃地域等にも出かけ、東三河地域と隣接地域の自然の共通点や違いを知ることができました。

この観察会の様子は、本誌の連載記事「穂の国自然観察」で紹介しています。バックナンバーは事務局までお問い合わせください。

(もりみの)

『穂の国石巻の森』10年の歩み

穂の国石巻の森は、豊橋市石巻町の「豊橋国有林」の中にあり、面積は0.6haです。

穂の国森づくりの会は、すでにご案内したように愛知森林管理事務所と「ふれあいの森」制度により協定を結び、2009年に上陸した台風18号による風倒木災害があったこの地で2011年から自然林の再生に取り組んでいます。

宮脇昭横浜国立大学名誉教授による指導のもと、潜在自然植生^{※1}と現地調査に基づいて、常緑広葉樹を中心とした自然林の再生を目指して、2011～2012年の2年間に約20種の植樹を行いました。

その後は、愛知県職員の研修生や植樹に参加して下さった愛知労協東三河支部や三遠機材(株)、JA愛知信連、JA豊橋などの方々に参加いただきながら下刈りや除伐などの育林作業を継続しています。

そして、2012年の植樹から5年がたった2017年、樹木の成長状況の調査を行いました。その結果、将来この森の主要の高木となる常緑広葉樹コジイの平均樹高が8m続いて、クスノキが約7m、タブノキが約5mの順に成長していました。すでに常緑樹の藪状態になっています。



▲ 植樹前の様子 (2001年)



▲ 藪の状態に… (2017年)

この藪の中に植樹前から自生していたヤマグリの稚樹や植樹したヤマザクラがひょいと抜けだし、コジイと同様に樹高が8mを超えていました。

また、この森の名の由来となった石巻山は、山頂が石灰岩地形で有名です。石灰岩が混じった土壌を好むバクチノキ^{※2}が穂の国石巻の森にも自生しています。この森のシンボリックな樹木として、保全・育成しています。2020年に初めて開花、果実をつけました。

2017年からさらに5年がたった2022年、再び樹木の成長調査

に取り掛かり始めました。速報値ですが、コジイは平均樹高10mを超え、クスノキやタブノキも約8mに成長しています。

今後は2022年の調査を基に、徐々に除伐を行いながら、さらに10年程度経過観察をしていく予定です。

※1 潜在自然植生

現在の気候および土壌条件下で、人間の干渉なしに遷移が完成した時に成立する植生

※2 バクチノキ

暖帯・亜熱帯に分布し、幹の樹皮がはがれやすく木肌が赤茶色にみえます。この木肌を博打に負けて身ぐるみをはがされた様子に見立てて名前が付けられたと言われています。豊橋市では、嵩山の蛇穴の近くに有名な自生地があります。

穂の国自然観察

三河生物同好会と穂の国森づくりの会が共催して開催してきた自然観察会の様子を紹介しします

その21
「作手高原」
中西 正

作手高原自然観察会

2010.6.6

作手には自然の見所がたくさんある。今回はそれらの多くに触れる観察会になった。まず中心、旧作手村役場の横に建つ作手歴史民俗資料館の見学をした。作手全体の模型や本日訪れる長ノ山の自然がジオラマで展示されている。それらを前にして本日の講師である内藤信司さんが説明する。ここには民俗資料も展示されており、作手の歴史を知るのにはいい施設だ。この後、東方に位置する甘泉寺(かんせんじ)に向かった。



▲ コウヤマキ

甘泉寺には全国一といわれるコウヤマキがある。バスを降りてから少し登って、境内端にあるコウヤマキにたどり着く。高さ28m、幹周囲6.3m、樹齢は600年を超えているという。1972年に国指定の天然記念物にされている。針葉樹でありながら途中で幹が2本に分かれているのが珍しい。端正な形だったが、樹の上部1/3ほどが枯れて幹だけになり、2009年にはそれも大きく欠損した。愛知県でコウヤマキが自然な状態で生えている

のは奥三河の岩場である。この後、初夏の長ノ山湿原に向かった。

湿原の周辺にある初夏の田は青々としている。湿原中のヌマガヤ、ミカズキグサ、ヤマドリゼンマイのみずみずしい葉を伸ばしている。その中に青色をしたカキツバタが咲いている。オニスゲ、ミタケスゲなどのスゲの仲間が目立たない花をつけている。散策路沿いのミズゴケも水を吸って生き生きしている。草の間に見える食虫植物のモウセンゴケは小さな白い花を咲かせている。ヨシや灌木のノリウツギなども生えている。これらは湿原では嫌われがちだが、全面に生えるのではなく環境に適応した場所に生え、その湿原の状態を示してくれている。ここから南に歩いて長ノ山のため池群を見た。



▲ 長ノ山湿原

湿地の南には性質の異なるため池が3個並んでいる。奥のものは水質もよく、周辺の森と空の色がマッチして景観が素晴らしい。真ん中の池はヒシ、ホソバミズヒキモ、ヒメミクリなどの水草があり、池に突き出た樹木はモリアオガエルの絶好の産卵場になっており、泡状の卵塊の残骸がついている。手前の池には食用になるジュンサイが広がっている。水面には長円形の葉が浮き、水の中にはまだ開く前の丸まった芽がついている。この芽は寒天質で被われており、この部分が食用になる。水生昆虫もトンボも豊富な場所でクロイトトンボ、シオヤトンボ、ギンヤマンなどがいるという。



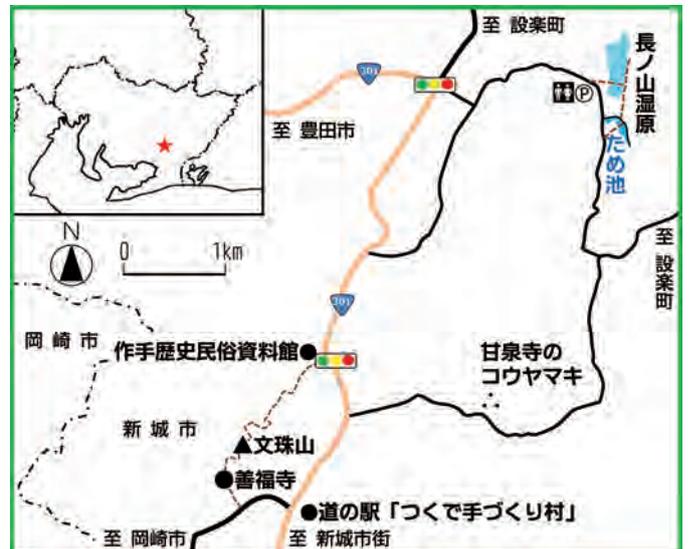
▲ 長ノ山湿原の奥のため池



▲ ため池の観察

旧作手村役場前で昼食をとった後、文珠山から善福寺までの観察をおこなった。山中ではシロモジヤトウゲシバが見られた。山を下りて、善福寺から道の駅つくで手作り村までの間では田の畔の植物としてムラサキサギゴケ、ギシギシなどが観察された。今回も加藤等次先生は講師として参加されていた。この後、先生は体調を崩されたため、自然観察会に参加されなくなった。この作手での観察会が最後の講師になった。穂の国の自然観察会には数多く参加していただき、多くの勉強をさせて頂いた。

(この地区においては、2003.10.19、2013.5.12、2015.10.4も同様のテーマで観察会を行った)



ウッドパーク平尾で一日森のようちえん開催

ウッドパーク平尾で新たなプロジェクトがスタートしました。さる令和3年11月30日に「山で森の声を聞く」秋の山を五感で楽しむ体験イベント(一日森のようちえん)を開催しました。

園児と保護者、先生23名の方々に来ていただきました。木と木の間をロープで下る木のロープウエー体験やいろいろな大きさの太鼓をたたいて演奏したり、木登り、松ぼっくり狩りなどいろいろなメニューを楽しみながら、ゆっくりとした時間を過ごしました。

保護者や先生方は、お子さんたちの姿を見ながら、リラックス呼吸法など日頃の疲れを癒していただきました。

お昼は、お弁当とウッドパーク平尾の釜戸で焼いた大きな焼き芋とリラックス呼吸法の先生の手づくりの味噌で作っていただいた豚汁で心も身体も温まりました。

私も童心に帰ってお子さんたちと木の天辺に登ったり、走り回ったり。おじさんたちの身体は疲れましたが、なぜか心は癒されました。

今後もこのような企画を続けていく予定です。



ウッドパーク平尾の生き物 ～トンボを中心に～ (その3)

多様な色彩に魅了されるヤンマ科のトンボ①

紙面の関係で夏から秋のトンボを冬に紹介することになりましたが…

ヤンマといえばオニヤンマやギンヤンマが有名ですがウッドパーク平尾には、他にも数種の5種のヤンマを観察することができます。

まず、5月中旬ごろになると「サラサヤンマ」という小型のヤンマが飛び始め、6月になるとオスがいたるところに縄張りを持ち、飛び回っています。

名前は腹部の模様が黄緑色の更紗模様似ていることに由来しています。

なぜかヤゴやメスがなかなか見つからない謎が多いトンボです。

しかし、幸運なことに昨年5月初旬に、偶然サラサヤンマが羽化しているところを観察することができました。

しかも、ピオトープとして整備したエリア内での羽化で、里地整備の成果が早速現れたのではないかと考えられ



サラサヤンマ♀



羽化直後のサラサヤンマ

ます。

6月下旬になると「ヤブヤンマ」という大型のヤンマが、ウッドパーク平尾の谷間の上空を飛び始めます。名前の由来は簡単で、藪に囲まれた溜池や湿地付近で生息しているからです。

成熟したオスは、複眼と下腹部の付け根が美しい青色になります。一方、成熟したメスは複眼と胸部から腹部にかけて少し青みかかった黄緑色が綺麗です。(つづく)



ヤブヤンマ♂



ヤブヤンマ♀

イベント インフォメーション

会員の方はもちろん、会員のご家族やご友人等どなたでも申し込み可能です。
参加ご希望の方は、申し込み方法等をご確認の上、穂の国森づくりの会事務局までご連絡下さい。
E-mail honokuni@honokuni.org FAX0532-55-5276 TEL0532-55-5272

2月23日(祝)

はじめての森づくり 体験講座

場 所: 愛知県民の森 (新城市門谷字鳳来寺7-60)
集 合: 午前10時に県民の森「モリトピア愛知」玄関前
解 散: 午後3時 同上
対 象: どなたでも (中学生以下は保護者同伴)
定 員: 20名 (当会会員優先、申込み順)
内 容: 徐間伐
持ち物: 飲料、昼食、タオル、着替え等
その他: 雨天中止 (小雨でも)
申込み: 参加希望者全員の住所、氏名、電話番号を事務局へご連絡ください。

※本事業は、(公財)豊川水源基金「水源林保全流域協働事業」の助成金により開催します。

定期活動やっています! 「ウッドパーク平尾」

●毎月第3土曜日

(令和4年2月19日、3月19日、4月16日、5月21日)

集 合: 午前10時にウッドパーク平尾
解 散: 自由 (作業は午前11時半に終了します)
対 象: 個人会員 (家族でご参加歓迎)、団体企業会員
内 容: 草刈り、薪割、休憩スペースの整備など
持ち物: 長靴、軍手、飲料、タオルなど
その他: 雨天中止 (小雨でも)
申込み: 不要ですが、事前に事務局へ連絡をいただければ有難いです。

※新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、延期や中止する場合がありますので予めご了承ください。

JT SDGs貢献プロジェクト助成金 に認定されました!

1,905,840円

ウッドパーク平尾での
里地再生事業が採択さ
れました。
右側写真は、昨年9月7
日に開催された助成金
交付式の様子です。



一緒にSDGsに 取り組みませんか?



会社・団体としてSDGsに取り組みたい。
でも、何から始めたらいいのかわからない。
穂の国森づくりの会では、多くの企業・団体と
協働でSDGsに取り組んでいます。
詳しくは、事務局までお気軽にお問い合わせください。

ハイブリッドカーは

愛知トヨタ 豊橋店

(0532)52-6391

〒440-0092 豊橋市瓜郷町高道46



CONSTRUCTION & CONCRETE
kawaken

私たちと一緒に森へいきませんか?
穂の国森づくりの会会員大募集!!
<https://www.honokuni.org/>

会の趣旨にご賛同いただき、年会費1口以上ご負担いただきますと、どなたでも
会員になることができます。
会費: 個人会員1口・3,000円 / 団体企業会員1口・12,000円
入会に関するお問合せは、穂の国森づくりの会事務局まで
Tel. 0532-55-5272 E-mail/honokuni@honokuni.org